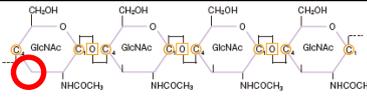
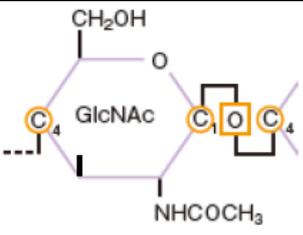
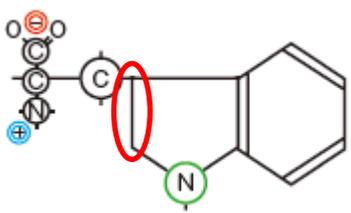
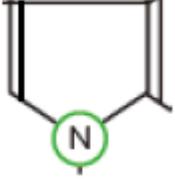
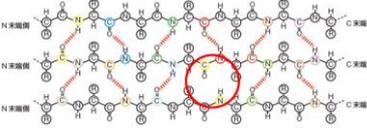
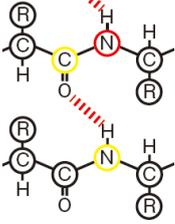
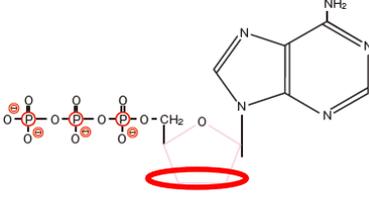
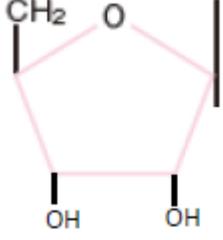
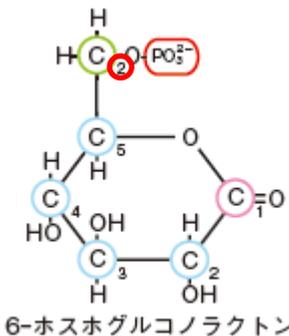
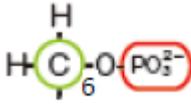
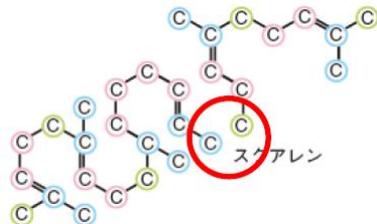
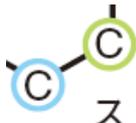


『カラー図解 生化学ノート』

第1刷訂正表

以下の箇所に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

頁	場所	誤	正
9	図 A		 (左端の GlcNAc の 3 番の炭素に棒を追加)
13	図 A の トリプトファン		 (中央の五員環の 1 か所を二重結合にする)
13	図 A		(以下の注を追加) 疎水性か親水性かはっきり分けられないアミノ酸もあります。このページではシステインやグリシンを疎水性アミノ酸に分類しましたが、親水性の中性アミノ酸とすることもあります。
15	図 D		 (O と H をつなぐ赤点線を 1 本追加)

頁	場所	誤	正
20	本文 4～5 行目	1 つずつ <u>アルコール</u> がついた	1 つずつ <u>ヒドロキシ基</u> がついた
29	図 D		 (中央の五員環の 2 番と 3 番の炭素に OH 基を追加)
30	側注	活性 <u>酵素</u> →52 ページ	活性 <u>酸素</u> →52 ページ
39	図 B の 6-ホスホグルコ ノラクトン	 6-ホスホグルコノラクトン	 (緑色の炭素は 2 番ではなく 6 番)
68	側注「致死遺伝子」の下から 2 行目	遺伝子が正常な <u>ので</u> 、	遺伝子が正常ならば
71	表の説明	2 回反応させれば 2 本得られますが、 <u>3 回反応させれば 8 本</u> 、4 回では 22 本というように、	2 回目の反応で初めて 2 本得られます。 <u>3 回目では 8 本</u> 、4 回では 22 本というように、
96	本文下から 13 行目	図 A のような六員環と五員環	右のような六員環と五員環
97	図 A のスクアレンの構造式	 スクアレン	 スクアレン (C と C をつなぐ線を追加)
120	本文 7 行目	<u>表 A</u> に、生体に含まれ	<u>右の表</u> に、生体に含まれ

頁	場所	誤	正
127	表中の 「20」の 「覚えか た」の欄	エイコサペンタ酸	エイコサペンタ <u>エン</u> 酸
130	下から1行 目および3 行目	式①	式②
134	本文3行目	<u>酵素</u> との結合	<u>酸素</u> との結合
140	本文下か ら13～11 行目	炭酸ガス濃度が増加する場合と いうのは、血液を試験管にとって <u>室内（炭酸ガス濃度0.04%）で酸 やアルカリを加えた</u> 場合のこと です。	炭酸ガス濃度が増加する 場合というのは、血液を試 験管にとって <u>酸やアルカ リを加えてすぐに密栓を し、炭酸ガスが期待として 逃げていかずに溶液中に とどまっている</u> 場合のこ とです。